

(3)地域共生の土地利用検討会（平成11年～14年）

1. 個々の利害調整を超えて価値の共有のまちづくりへの発展

平成10年夏に会設立の契機となった敷地において、「地域の人に受け入れられ、ともに享受しあえる施設建設を目指したい」との検討の提案を事業者から受け、平成11年1月に地元住民、事業者、行政のパートナーシップによる「地域共生の土地利用検討会」がスタートしました。検討会は12年12月に2年間の取組の成果を「地域共生の土地利用基本計画『まちづくりプラン』」にまとめました。平成14年8月末に「アーバネックス三條」が竣工、9月に入居に至りました。

地元報告会の様子



アーバネックス三條



基本計画段階
の最終模型→



2. まちなか住まい交流会の開催

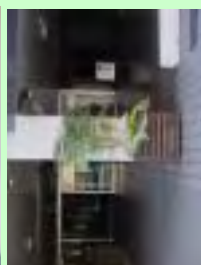
- 「顔の見えない不安感」を解消するため、計画段階の平成12年秋に「まちなか住まい交流会・ワークショップ」を開催しました。
- 「地域の人にも新しく住む人も『顔の見える安心感』を大切に、自然な交流がしたい」とのキーワードをもとに、竣工前に姉菊屋町の地蔵盆に入居予定者を招待し、竣工後も入居者の方と界限の方とイベントなどを通じて様々な交流活動を実践しています。



3. まちなか住まい交流会の発展

アーバネックス三條のエントランス前で、界限の人と入居者の協働作業で「界限フロントガーデン（コンテナガーデン）」と名付けて寄せ植えづくりを行いました。

交流の象徴として青々としたガーデンを維持するには日頃の気遣いが大切です。ガーデンを通じて新たな、さりげない日常の交流の小さなきっかけが実現しました。
〜この事業は平成16年度「中京区にぎわいのあるまちづくり支援事業」の支援を受けて実施しました。



■ 「対立の構図」から「価値の共有」を目指す活動への転換

まちなか住まい交流会の開催の継続により、「新しく導入される人やモノがまちと対話し、対話を通じてまちがより豊かになる方向へと変化を誘導したい」とする会の設立当初からの目標を具体化することができました。